				シラ	バ	ス			
科目名	名	舞台	技術	担	. 当 :	者名	渡邊	基 政美	
学科	1		・イベント科 と画コース	ž	受業	方法	## H	購 義	
認定單開講等		4単位 1学年	開講期 必・選		必追	巽	授業時間数	72時間	
授業目	目的	仕事として、現場	易に出た際困らない	いように基	本的	な知識をな	るべく多く学生に伝	えていく	
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング		中で戸惑いを少し					門用語や特殊な場う、様々な知識、経	
授業棚	既要		・機構の名前、そ				本的な「挨拶をきちん 舞台の世界では未	んとする」をはじめ、 だ使われている「尺	
			授業内容			授業内容			
	1	オリエンテーション	/		19	試験			
	2	オリエンテーション	/		20	試験の講評			
	3	オリエンテーション	/		21	舞台用語(シ	ノーリング、フロントなる	ビ)	
	4	講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して			22	ホール管理について			
	5	舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点をプロ音響データーブックを参考にし、PowerPointを使い伝える			23	山台の組み	方(復習、基礎編1)		
	6	同上(中割幕、大黒幕など)			24	山台の組み	方(基礎編2)		
	7	同上(暗転幕、バトンなど)			25	山台の組み	方(基礎編3)		
授業	8	同上(舞台用語に	関して)		26	山台の組み	方(応用編 迫)		
計画	9	同上(アッパーホ)に関して)	リゾントライトなどと、	平面図	27	山台の組み	方(応用編 2枚重ね)	
表	10	同上(綱元、操作	盤など)		28	山台の組み	方(応用編 縦敷き、	変形1)	
	11	同上(迫、すのこだ	など)		29	山台の組み	方(応用編 変形2)		
	12	同上(反響板、オ	ーケストラピットなど	`)	30	舞台の禁止	行為に関して		
	13	同上(所作台、本	花道など)		31	試験対策			
	14	同上(山台)、尺貫	責法、平台、箱馬に	関して	32	試験			
	15	高さのない山台の	組み方		33	試験の講評			
	16	高さのない山台の	組み方		34	まとめ			
	17	舞台用語(定式幕	手、高座台など)		35	まとめ			
	18	試験対策			36	まとめ			
		テスト		50%	兴	邓50七年	益期。後期	改建 基举件	
成績害	訓合	学習態度・出席	率	50%	子	習FB方法	刑朔⁵饭别	成績表送付	
72人/1頁百	иП	レポート			F	龙績評価		90~100点 A80~8 860~69点 D59点	
		合計		100%).	以傾 計 Ш	以下は不合格	700 -03W D33W	
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型	型学習≫50% R≪実働	動実践型学習	3≫20%	A≪主体的参	涂加型学習≫20% G≪海	5外体感型学習≫10%	
講師プ			術科卒業の後、株式 、ホールチーフとして				理及び技術者として勤約	売28年に至る。 勤務した	

				シラ	ノヾ	ス				
科目	名	音響技	支術 I	担	. 当 :	者名	櫛	田博		
学科	4		・イベント科 と画コース	打	受業に	方法	1	構義		
認定單		4単位	開講期			_	授業時間数	72時間		
開講学	字年	1学年	必・選		必追	進				
授業目	目的	技術的な基礎	知識を身につける	5。/論理	!的な	思考力を身	につける。			
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング						種類と使用目的を 響マンとしての役割			
授業概	既要	ぶ。□ 後半は、マイク		ーカーまで	での名	ト機材の種類	的な説明から、電気で 質や機能・使用目的	気・電子の基礎を学を理解する。□		
			授業内容			, = 0	授業内容			
	1	オリエンテーション	/		19	前期末試駅	<u></u> 倹の解説			
	2	オリエンテーション	/		20	周辺機器	① (イコライザー/空	間系エフェクター)		
	3	オリエンテーション	/		21	周辺機器 器)	① (イコライザー/空間系エフェクター) ② (ダイナミックス系エフェクター/録再機 ① (ユニット/ホーン/エンクロージャ)			
	4	PAの世界			22	アウトプット	・① (ユニット/ホーン	//エンクロージャ)		
	5	音響に必要な算			23	アウトプット	・② (プロセッサー/	パワーアンプ)		
	6	舞台・音響の略号と仕込図			24	アウトプット	・③(指向性/スピー	・カシステム)		
	7	電気の基礎 (電圧/電流/電力)				ルームアコ	ースティック (音の吸	収·反射·透過/残響)		
授	8	電子の基礎 ① (抵抗/コンデンサ/コイル)			26	音の発音と	ニマイキング			
業計	9	電子の基礎 ②	(dB/インピーダン	ス)	27	音響備品/	/ケーブル/工具			
画表	10	電子の基礎 ③	(アナログオーディ)	才伝送)	28	デジタルの	基礎 ① (デジタルオ	ーディオ)		
	11	音の性質			29	デジタルの	デジタルの基礎 ② (PCM音源と圧縮音源)			
	12	聴覚•音響心理	効果		30	音響の仕事	音響の仕事の進め方			
	13	音響システムの	概要		31	後期まとめ				
	14	インプット ① (マ	イクロフォン)		32	リクエスト譚	義			
	15	インプット ② (ピ	ックアップ / DI)		33	学年末試験	食の解説			
	16	ミキサー①(イン	ンプットモジュール)	34	まとめ				
	17	ミキサー ②(ア	ウトプットモジューノ	レ)	35	まとめ				
	18	前期まとめ			36	まとめ				
		テスト		90%	244	羽口七斗	益地. 後 坦	成績表送付		
成績害		学習態度·出席	率	10%	子	習FB方法	刊 判 * 仮 判			
以入利其古	13 🗖	レポート			F		出席率80%以上 \$ 89 B70~79点	S90~100点 A80~ C60~69点 D59点		
		合計		100%	Г.	入/归下 川	以下は不合格			
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学	習≫30% R≪実働等	実践型学習》	≫30%	A≪主体的参	\$加型学習≫30% G≪	(海外体感型学習≫10%		
講師プ		音響技術者として3	0年以上のキャリアを	持ち、現在	も音楽	 ジアーや各種	イベントにてPAオペレー	ーターとして活躍する。		

				シラ	ノヾ	ス			
科目	名	ステージ	・テクニック	担	1.当	者名	長谷川 浩司、村之、月岡 靖	野浩一、中井川孝智、岩元真樹	
学 科			・イベント科 全画コース	ł	受業ス	方法	<u>.</u>	 構義	
認定員		3単位	開講期		2/25	ia.	授業時間数	54時間	
開講生	子牛	1学年	必・選		必追				
授業目	目的	イベント業界で値 成長を目的とす		理解、スク	ァジュ	ジュール・予算管理などの重要性を学び社会人			
授業 F (ラーニ アウトカ	ング	イベントで使用で 定める	する各種資料、アク	イテムなと	で理	解を深め、	実習、実技などで具	体的に授業目標を	
授業棚	既要	現場で必要なスいて説明を行っ		·制作•運	営・ 大	道具·楽器	・特殊効果と分けて	深く座学や実技にお	
			授業内容				授業内容		
	1	オリエンテーション	/		19	「譜割り」の作	作成		
	2	オリエンテーション	/		20	実際の楽器	を使ってのローディー	- 実践①	
	3	オリエンテーション			21	実際の楽器	を使ってのローディー	-実践②	
	4	ジャンル別に求められるスタッフの違い			22	シーケンスを	ノーケンスを使った同期演奏の実践		
		イベントに関わる	全セクションの業務	内容	23	学祭に向け	ての現場テクニックの	復習	
	6	制作業務の講義	、シュミレーション		24	学祭の反省	会		
	7	シュミレーションを取り上げての予算案説明			25	「特殊効果」	の種類と消防法		
授業	8	まとめ①			26	「特殊効果」	の実践		
計画	9	スケジュールの作	成方法		27	クリスマスイ	ベント 全セクション合	同打ち合わせ	
表	10	舞台で使用する違	道具や、寸法の説明	月	28	クリスマスイ	ベント 最終技術打ち	合わせ	
	11	図面の見方及び	、作成方法		29	クリスマスイ・	ベント 反省会		
	12	グループに分かれ	れて「バミリ」の実践		30	演出で求め	られる「キッカケ」		
	13	イントレ&平台等	、基礎舞台作成方法	法	31	コンサート映	像を見ての進行表の	か作り方	
	14	「夏のイベント」へ	向けての基礎舞台	作成	32	2年生の卒業	業制作のための技術	予習	
	15	「夏のイベント」へ	向けての基礎舞台	作成	33	1年間を通し	てのまとめ及びプロ	意識の講義	
	16	まとめ②			34	まとめ			
	17	スタッフとしての力	方向性議論		35	まとめ			
	18	「譜割り」の作成力			36	まとめ			
		テスト		40%	兴	習FB方法	前期•後期	成績表送付	
成績害	訓合	学習態度・出席	率	30%	7-				
沙人小只下	.1 [レポート		30%	F			S90~100点 A80~ C60~69点 D59点	
		合計		100%	,-	2 12 X H T T T T	以下は不合格		
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学	習≫30% R≪実働9	実践型学習》	≥30%	A≪主体的参	≽加型学習≫30% G≪	海外体感型学習≫10%	
講師プ		長年舞台監督として	て従事し、ホール・アリ	リーナツアー	·や各科	重イベントなど	 様々な現場で活躍して	いる	

		<u> </u>		シラ	バ	ス			
科目	名	舞台	注 持	担	当	者名	渡	邉 政美	
学 乖	斗		・イベント科 制作コース	ł	受業ス	方法	i i		
認定具		4単位 1学年	開講期 必・選		必道	¥	授業時間数	72時間	
授業目	目的		易に出た際困らな	いように基	本的	な知識をな	るべく多く学生に伝	えていく	
授業 F (ラーニ アウトカ	ング		中で戸惑いを少し					門用語や特殊な場で、様々な知識、経	
授業棚	既要		・機構の名前、そ					んとする」をはじめ、 Rだ使われている「尺	
			授業内容	授業内			授業内容		
	1	オリエンテーション	/		19	試験			
	2	オリエンテーション	/		20	試験の講評			
	3	オリエンテーション	/		21	舞台用語(シ	ノーリング、フロントな	ど)	
	4	講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して			22	ホール管理	管理について		
	5	舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点をプロ音響データーブックを参考にし、PowerPointを使い伝える			23	山台の組み	方(復習、基礎編1)		
	6	同上(中割幕、大黒幕など)			24	山台の組み	方(基礎編2)		
	7	同上(暗転幕、バトンなど)			25	山台の組み	方(基礎編3)		
授 業	8	同上(舞台用語に	ニ関して)		26	山台の組み	方(応用編 迫)		
計画	9	同上(アッパーホ)に関して)	リゾントライトなどと、	平面図	27	山台の組み	方(応用編 2枚重ね	1)	
表	10	同上(綱元、操作	盤など)		28	山台の組み	方(応用編 縦敷き、	変形1)	
	11	同上(迫、すのこ)	など)		29	山台の組み	方(応用編 変形2)		
	12	同上(反響板、オ	ーケストラピットなと	<u>;</u>)	30	舞台の禁止	行為に関して		
	13	同上(所作台、本	花道など)		31	試験対策			
	14	同上(山台)、尺貫	貫法、平台、箱馬に	関して	32	試験			
	15	高さのない山台の	組み方		33	試験の講評			
	16	高さのない山台の	組み方		34	まとめ			
	17	舞台用語(定式幕	F、高座台など)		35	まとめ			
	18	試験対策			36	まとめ			
		テスト		50%	学	習FB方法	 	成績表送付	
成績害	割合	学習態度•出席	率	50%		HID/IA			
/*/////	.1 🗆	レポート			F			90~100点 A80~ C60~69点 D59点	
		合計		100%).	~//──/- IIII	以下は不合格	200 00W D00W	
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型	型学習≫50% R≪実値	動実践型学習	3 ≫ 20%	A≪主体的参	>加型学習≫20% G≪剂	毎外体感型学習≫10%	
講師プ			術科卒業の後、株式 、ホールチーフとして				理及び技術者として勤	続28年に至る。勤務に	

				シラ	ノヾ	ス			
科目	名	音響技	支術 I	担	. 当 :	者名	櫛	田博	
学科	4	コンサート・ ステージ制		打	受業に	方法	1	構義	
認定單		4単位	開講期			_	授業時間数	72時間	
開講学	字年	1学年	必・選		必追	進			
授業目	目的	技術的な基礎知	田識を身につける	5。/論理	!的な	思考力を身	につける。		
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング						種類と使用目的をき 撃マンとしての役割		
授業棚		ぶ。□						気・電子の基礎を学	
			や楽器の発音の				質や機能・使用目的	と理解する。	
			授業内容				授業内容		
	1	オリエンテーション			19	前期末試験	倹の解説		
	2	オリエンテーション			20		① (イコライザー/空間系エフェクター) ② (ダイナミックス系エフェクター/録再機		
	3	オリエンテーション			21	周辺機器 器)	② (ダイナミックス系ニ	エフェクター/録再機	
	4	PAの世界			22	アウトプット	・① (ユニット/ホーン	//エンクロージャ)	
	5	音響に必要な算	数•数学		23	アウトプット	・② (プロセッサー/	パワーアンプ)	
	6	舞台・音響の略号と仕込図			24	アウトプット	・③ (指向性/スピー	・カシステム)	
	7	電気の基礎 (電圧/電流/電力)			25	ルームアコ	ースティック (音の吸	収•反射•透過/残響)	
授	8	電子の基礎 ① (抵抗/コンデンサ/コイル)			26	音の発音と	ニマイキング		
業計	9	電子の基礎 ② (dB/インピーダン	ス)	27	音響備品/	/ケーブル/工具		
画表	10	電子の基礎 ③ (アナログオーディン	才伝送)	28	デジタルの)基礎 ① (デジタルオ	ーディオ)	
	11	音の性質			29	デジタルの基礎 ② (PCM音源と圧縮音源)			
	12	聴覚•音響心理タ	効果		30	音響の仕事	上事の進め方		
	13	音響システムの根	既要		31	後期まとめ			
	14	インプット ① (マ	イクロフォン)		32	リクエスト諱	義		
	15	インプット②(ピ	ックアップ / DI)		33	学年末試験	・ 一 一 一 の解説		
	16	ミキサー①(イン	ノプットモジュール)	34	まとめ			
	17	ミキサー ②(アウ	ウ トプットモジュー <i>)</i>	レ)	35	まとめ			
	18	前期まとめ			36	まとめ			
		テスト		90%	兴	習FB方法	台相. 24 相	成績表送付	
成績害	訓合	学習態度·出席率	<u> </u>	10%	子	日TD刀伝	刊	<u></u> 吸順 &	
八八八月百	13 []	レポート			F		出席率80%以上 \$ 89 B70~79点	S90~100点 A80~ C60~69点 D59点	
		合計		100%	,-	2 - 12 X H 1	以下は不合格		
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学習	習≫30% R≪実働領	実践型学習》	≫30%	A≪主体的参	\$加型学習≫30% G≪	〈海外体感型学習≫10%	
講師フィー		音響技術者として30	年以上のキャリアを	持ち、現在	も音楽	シアーや各種	イベントにてPAオペレー	ーターとして活躍する。	

				シラ	ノヾ	ス			
科目	名	ステージ	・テクニック	担	.当	者名	長谷川 浩司、村之、月岡 靖	野浩一、中井川孝智、岩元真樹	
学 科			・イベント科 制作コース	ł	受業ス	方法	<u>.</u>	 構義	
認定員		3単位	開講期		3435	13	授業時間数	54時間	
開講生	字牛	1学年	必・選		必追				
授業目	目的	イベント業界で何 成長を目的とす		理解、スク	ァジュ	ジュール・予算管理などの重要性を学び社会人			
授業 l (ラーニ アウトカ	ング	イベントで使用で 定める	する各種資料、アク	イテムなと	で理	解を深め、	実習、実技などで具	体的に授業目標を	
授業棚	既要	現場で必要なスいて説明を行っ		·制作•運	営・ 大	道具・楽器	・特殊効果と分けて	深く座学や実技にお	
			授業内容				授業内容		
	1	オリエンテーション			19	「譜割り」の作	作成		
	2	オリエンテーション	7		20	実際の楽器	を使ってのローディー	-実践①	
	3	オリエンテーション	/		21	実際の楽器	を使ってのローディー	-実践②	
	4	ジャンル別に求められるスタッフの違い			22	シーケンスを	ーケンスを使った同期演奏の実践		
		イベントに関わる	全セクションの業務	内容	23	学祭に向け	ての現場テクニックの	復習	
	6	制作業務の講義	、シュミレーション		24	学祭の反省	会		
	7	シュミレーションを取り上げての予算案説明			25	「特殊効果」	の種類と消防法		
授業	8	まとめ①			26	「特殊効果」	の実践		
業計画	9	スケジュールの作	成方法		27	クリスマスイ	ベント 全セクション合	同打ち合わせ	
画 表	10	舞台で使用する記	道具や、寸法の説明	月	28	クリスマスイ	ベント 最終技術打ち	合わせ	
	11	図面の見方及び	、作成方法		29	クリスマスイ	ベント 反省会		
	12	グループに分かれ	れて「バミリ」の実践		30	演出で求め	られる「キッカケ」		
	13	イントレ&平台等	、基礎舞台作成方法	法	31	コンサート映	:像を見ての進行表の)作り方	
	14	「夏のイベント」へ	向けての基礎舞台	作成	32	2年生の卒業	巻制作のための技術	予習	
	15	「夏のイベント」へ	向けての基礎舞台	作成	33	1年間を通し	てのまとめ及びプロ	意識の講義	
	16	まとめ②			34	まとめ			
	17	スタッフとしての力	テ向性議論 ニュー		35	まとめ			
	18	「譜割り」の作成力	方法 ————————————————————————————————————		36	まとめ			
		テスト		40%	学	習FB方法	前期•後期	成績表送付	
成績割		学習態度•出席	率	30%	-1-	HI DATA			
79人//貝百	111	レポート		30%	F			S90~100点 A80~ C60~69点 D59点	
		合計		100%)-	учэсн і іш	以下は不合格	200 COM DOOM	
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学	習≫30% R≪実働9	実践型学習》	≥30%	A≪主体的参	\$加型学習≫30% G≪	海外体感型学習≫10%	
講師プ		長年舞台監督として	て従事し、ホール・アリ	リーナツアー	·や各科	重イベントなど	 様々な現場で活躍して	いる	

	シラバス								
科目名	名	舞台技術		担	当	者名	渡邉 政美		
学 科	ŀ	コンサート・イベン ステージ音響コー		拉	受業プ	方法	講義		
認定単	 位	4単位	開講期				授業時間数	79時間	
開講学	华年	1学年	必・選	必選			役立つと考える。専門用語や特殊な場合れる人材になるよう、様々な知識、着本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台の世界では未だ使われている「授業内容のいて 「役業内容のいて 「復習、基礎編1) (基礎編2) (基本編3)		
授業目	目的	仕事として、現場	場に出た際困らない	いように基	本的	本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく			
授業目 (ラーニ アウトカム	ング		中で戸惑いを少し						
授業棚	既要		・機構の名前、そ						
			授業内容		授業内容			?	
	1	オリエンテーション①			19	ホール管理に	ついて		
	2 オリエンテーション② 20 試験対			試験対策					
	3 オリエンテーション③				21	試験の講評			
	4	講師と学生の自己紹関して	介、及び今後の舞台技	術の授業に	22	舞台用語(シー	リング、フロントなど)		
	5	舞台用語、場所の名	前、それぞれの役割、役 を参考にし、powerpoin		23	ホール管理に	ついて		
	6	同上(中割幕、大黒幕など)			24	山台の組み方	(復習、基礎編1)		
	7	同上(舞台用語に関し	(て)		25 山台の組み方(基礎編2)				
授	8	同上(暗転幕、バトンカ	 など)		26	山台の組み方	(基本編3)		
業計	9	同上(アッパーホリゾン	小ライトなどと、平面図 に	こ関して)	27	山台の組み方	(応用編 迫)		
画表	10	同上(綱元、操作盤な	ど)		28	山台の組み方	(応用編 2枚重ね)		
	11	同上(迫、すのこなど)			29	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)		
	12	同上(反響板、オーケ	ストラピットなど)		30	山台の組み方(応用編 変形2)		
	13	同上(所作台、本花道	(など)		31	舞台での禁止	戸為に関して		
	14	同上(山台)、尺貫法、	平台、箱馬に関して		32	試験対策			
	15	高さのない山台の組む	み方		33	試験			
	16	高さのない山台の組む	- み方		34	試験の講評			
	17	舞台用語(常識幕、高	 「座台など)		35	まとめ①			
	18	試験			36	まとめ②			
		テスト		50%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	送送付	
成績害	刊合	学習態度·出席	率	50%	7				
77 3/13 (レポート			E			890~100点 A80~8 C60~69点 D59点以	
		合計		100%			下は不合格		
P/R/A/C 講師ン フィー	プロ	東京工学院音響芸	≫50% R≪実働実践型 術科卒業の後、株式 トールチーフとして10	会社岡田舞	ま台に	て、ホール管理	学習≫20% G≪海外体 単及び技術者として勤約	感型学習≫10% 売28年に至る。勤務した会	

				シラ	バ	ス			
科目	名	音響技術 I		担	当	者名	櫛田 博		
学科	ŀ	コンサート・イベン ステージ音響コー		į	受業プ	方法	講義		
認定単	 位	4単位	開講期				授業時間数	72時間	
開講学	华年	1学年	必・選	必選			又未刊 问 妖	1 2 my (H)	
授業目	目的	技術的な基礎	知識を身につける	5。/論理	!的な	思考力を身	につける。		
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング						種類と使用目的を		
授業概	既要	ぶ。□ 後半は、マイク		ーカーまっ	ジョンなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学での各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ を説明する。				
			授業内容				授業内容	ξ	
	1	PAの世界			19	前期試験解答。	上解説		
	2	音響に必要な算数・独しの関連に必要な原数・独しの関連に必要な原数・独しています。			20	インプット ① (マイクの分類 <i>)</i>	/動作原理/指向性)		
	3	舞台・音響の略号と仁 (音響機材の略号・略			21	インプット ② (D.I./ピックア	ップ/マイクケーブル/	マルチケーブル	
	4	電気の基礎 (電圧/電流/電力))		22	アナログミキサ・ (インプットモジ			
	5	電子の基礎① (抵抗/コンデンサ/コイル)			23	アナログミキサ・(バス/アウトラ	ー ② ゚ットモジュール/マトリッ	クス)	
	6	電子の基礎② (dB/インピーダンス)			24	周辺機器 ① (イコライザー/	「空間系エフェクター)		
	7	電子の基礎③ (増幅/フィルター/平衡伝送)				周辺機器 ② (ダイナミックス)	系エフェクター/再生機	器)	
授	8	音とは (振動/疎密波/音波/音/音の三要素)			26	アウトプット ① (DSPプロセッサ	トー/パワーアンプ/ユン	ニット動作原理)	
業計画	9	音の性質 (進行波/定在波/	干渉/屈折)		27	アウトプット ② (スピーカー構)	成と取り扱い)		
画 表	10	聞こえる仕組み (物理現象→生理現	象→心理現象)		28	デジタルの基礎 ① (PCM変換/DSD変換/ADC・DAC)			
	11	音の心理学 (音の大小と対数/音	6圧/等ラウドネス)		29	デジタルの基礎 (パケット/圧約			
	12	音の心理効果 (耳が二つ/ステレオ	フォニック~イマーシブ	")	30	PAプラン (情報と資料)			
	13	音が出る仕組み (発音体の構造)			31	リクエスト講義 (予備:資格と核	食定)		
	14	音楽とは (音と音楽の違い)			32	後期まとめ			
	15	OB・OGディスカッショ	i>		33	後期末試験			
	16	リクエスト講義 (予備:ケーブルの知	識)		34	後期末試験解	答と解説		
	17	前期まとめ			35	リクエスト講義 (ケーブルの知	識)		
	18	前期末試験		T	36	リクエスト講義 (工具・測定器)			
		テスト	क्र	90%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	送付	
成績害	削合	学習態度・出席レポート	平	10%		长/主示/m*		S90~100点 A80~	
		合計		100%		戈績評価 	以下は不合格	C60~69点 D59点	
P/R/A/0	割合	P≪課題解決型学習	≫30% R≪実働実践	೬型学習≫3	0%	A≪主体的参加	型学習≫30% G≪海	好体感型学習≫10%	
講師プロ 音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。 ブイール 近年ではコロナ禍の対応として、音楽配信やヴァーチャル配信の音声も担当。					ーターとして活躍する。				

				シラ	バ	ス			
科目名	名	ステージ・テクニ	ック	担	当	者名			
学和	ŀ	コンサート・イベン ステージ音響コー		ł	受業ス	方法	講義		
認定単開講学		3単位 1学年	開講期	必選			授業時間数 54時間		
					アジュ	ール・予算 ^を	 野理などの重要性	 を学び社会人としての	
授業目	目的	成長を目的とする							
授業目 (ラーニ アウトカ	ング	イベントで使用す 定める	る各種資料、アク	イテムなと	で理	解を深め、	実習、実技などで身	具体的に授業目標を	
授業棚	既要	現場で必要なス いて説明を行っ [*]		制作•運	営・大	道具・楽器	・特殊効果と分けて	[深く座学や実技にお	
			授業内容				授業内容	3	
	1	オリエンテーション①			19	「譜割り」の作品	Ì.		
	2	オリエンテーション②			20	実際の楽器を信	吏ってのローディー実践(D	
	3	オリエンテーション③			21	実際の楽器を使	使ってのローディー実践の	2)	
	4	ジャンル別に求められるスタッフの違い			22	シーケンスを使	走った同期演奏の実践		
	5	イベントに関わる全セ	クションの業務内容		23	学祭に向けての	り現場テクニックの復習		
	6	制作業務の講義、シュミレーション			24	学祭の反省会			
		シュミレーションを取り上げての予算案説明			25	「特殊効果」の	種類と消防法		
授	8	まとめ①			26	「特殊効果」の	実践		
業計	9	スケジュールの作成力	法		27	クリスマスイベン	小 全セクション合同打ち	ら合わせ	
画表	10	舞台で使用する道具を	や、寸法の説明		28	クリスマスイベン	小 最終技術打ち合わせ	<u>+</u>	
	11	図面の見方及び、作品			29	クリスマスイベン	小 反省会		
	12	グループに分かれて「	バミリ」の実践		30	演出で求められ	しる「キッカケ」		
	13	イントレ&平台等、基础	逆舞台作成方法		31	コンサート映像	を見ての進行表の作り方	f	
	14	「夏のイベント」へ向け	ての基礎舞台作成		32	2年生の卒業制	作のための技術予習		
	15	「夏のイベント」へ向け	ての基礎舞台作成		33	1年間を通して	のまとめ及びプロ意識の	講義	
	16	まとめ②			34	まとめ①			
	17	スタッフとしての方向性	土議論		35	まとめ②			
	18	「譜割り」の作成方法			36	まとめ③			
		テスト		40%	严	習FB方法	新聞·滋聞 出建士	5.)关 <i>行</i>	
成績害		学習態度•出席	率	30%	子	百FD刀伝	刊 列 *後朔	· 达刊	
沙人/侧百	1 🗖	レポート		30%	E	戈績評価			
		合計		100%	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		以下は不合格	COO 00点 D00点	
P/R/A/O	·割合	P≪課題解決型学習》	≫30% R≪実働実践	<u></u> 表型学習≫3	0%	 A≪主体的参加	型学習≫30% G≪海	再外体感型学習≫10%	
講師フィー		長年舞台監督として	「従事し、ホール・アリ	ーナツアー	-や各種	重イベントなど	 様々な現場で活躍して	いる	

				シラ	ノヾ	ス		
科目名	名	舞台技術		担	. 当 =	者名	渡邉 政美	
学科	+	コンサート・イベン ステージ照明コー		1	受業プ	方法	講義	
認定単	单位	4単位	開講期				授業時間数	72時間
開講学	学年	1学年	必・選	必選			120 7K - 1 114 39K	
授業目	目的						るべく多く学生に伝	
授業 E (ラーニ アウトカ	ング		中で戸惑いを少し					評用語や特殊な場よう、様々な知識、経
授業棚	既要		・機構の名前、そ					んとする」をはじめ、 未だ使われている「尺
			授業内容	授業内容			3	
	1	オリエンテーション①			19	ホール管理につ	ついて	
	2	オリエンテーション②			20	試験対策		
	3 オリエンテーション③				21	試験の講評		
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授 関して			術の授業に	22	舞台用語(シー	リング、フロントなど)	
	5	舞台用語、場所の名詞 プロ音響データブック	前、それぞれの役割、名 を参考にし、powerpoin		23	ホール管理につ	ついて	
	6	える 同上(中割幕、大黒幕	など)		24	山台の組み方	(復習、基礎編1)	
	7	同上(舞台用語に関して)			25	山台の組み方	(基礎編2)	
授	8	同上(暗転幕、バトンな	cど)		26	山台の組み方	(基本編3)	
業計	9	同上(アッパーホリゾン	小ライトなどと、平面図 (こ関して)	27	山台の組み方	(応用編 迫)	
画 表	10	同上(綱元、操作盤な	ど)		28	山台の組み方	(応用編 2枚重ね)	
	11	同上(迫、すのこなど)			29	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)	
	12	同上(反響板、オーケ	ストラピットなど)		30	山台の組み方(応用編 変形2)	
	13	同上(所作台、本花道	など)		31	舞台での禁止行	行為に関して	
	14	同上(山台)、尺貫法、	平台、箱馬に関して		32	試験対策		
	15	高さのない山台の組み	み方		33	試験		
	16	高さのない山台の組み	み方		34	試験の講評		
	17	舞台用語(常識幕、高	座台など)		35	まとめ①		
	18	試験			36	まとめ②		
		テスト		50%	学	習FB方法	前期•後期 成績表	\$\ 学 {}
成績害		学習態度•出席:	率	50%	子	日口刀伍	时朔 夜朔 风稠衣	CON.
//人//具育	11 [レポート			Б			590~100点 A80~8 C60~69点 D59点以
		合計		100%		2427 H 1 Ind	下は不合格	com Doomer
P/R/A/O	G割合	P≪課題解決型学習〉	≫50% R≪実働実践	型学習≫20%	A ≪	主体的参加型	学習≫20% G≪海外体	☑感型学習≫10%
講師フィー			術科卒業の後、株式 ベールチーフとして10				里及び技術者として勤約	売28年に至る。勤務した会

	シラバス							
科目	名	音響技術 I	担	. 当 =	者名	櫛田 博		
学科	+	コンサート・イベント科 ステージ照明コース	1	受業プ	5法	講義		
認定単		4単位 開講期				授業時間数	72時間	
開講学	产年	1学年 必・選	必選			1X /K 11 11 3X	12.00 [83	
授業目	目的	技術的な基礎知識を身につけ	ける。/論理	!的な	りな思考力を身につける。			
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング	ハードウエア: アナログ電気音 ソフトウエア: 現場においての	が響の基礎を スタッフとし	から、 ての	音響機材の 責任や、音	種類と使用目的を 撃マンとしての役割	理解する。□ を理解する。	
授業棚	既要	ぶ。□	ピーカーまつ	種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎で ・カーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ 仕組みを説明する。				
		授業内容				授業内容	<u> </u>	
	1	PAの世界		19	アウトプット(1) (ユニット/ホーン/エン	ンクロージャ)	
	2 音響に必要な算数・数学			20	アウトプット ②) (プロセッサー/パワー	アンプ)	
	3 舞台・音響の略号と仕込図			21	アウトプット ③)(指向性/スピーカシス	テム)	
	4	電気の基礎 (電圧/電流/電力)		22	ルームアコー	スティック(音の吸収・反	射•透過/残響)	
	5	電子の基礎 ① (抵抗/コンデンサ/コイル)			音の発音とマ	イキング		
	6	電子の基礎 ② (dB/インピーダンス)			音響備品/ケ	ーブル/工具		
	7	電子の基礎 ③ (アナログオーディオ伝送)			デジタルの基	礎 ① (デジタルオーディ	(才)	
授	8	音の性質		26	デジタルの基	礎 ② (PCM音源と圧縮音	音源)	
業計	9	聴覚・音響心理効果		27	音響の仕事の	進め方		
画表	10	音響システムの概要		28	後期まとめ			
	11	インプット ① (マイクロフォン)		29	リクエスト講義	;		
	12	インプット ② (ピックアップ / DI)		30	学年末試験の)解説		
	13	ミキサー ① (インプットモジュール)		31	振り返り1			
	14	ミキサー ② (アウトプットモジュール)		32	振り返り2			
	15	前期まとめ		33	振り返り3			
	16	前期末試験の解説		34	総評1			
	17	周辺機器 ① (イコライザー/空間系エフ	エクター)	35	総評2			
	18	周辺機器 ② (ダイナミックス系エフェクタ 器)	一/録再機	36	総評3			
		テスト 一	90%	学	習FB方法	前期•後期 成績表	送伏	
成績害	削合	学習態度・出席率 レポート 合計	10%	万	戈績評価		S90~100点 A80~ C60~69点 D59点	
P/R/A/0	G割合	P《課題解決型学習≫30% R《実働写		0%			毎外体感型学習≫10%	
講師プ		音響技術者として30年以上のキャリア	を持ち、現在	も音楽	ツアーや各種	イベントにてPAオペレ	ーターとして活躍する。	

				シラ	バ	ス			
科目名	名	ステージ・テクニ	ック	担	当	者名	長谷川 浩司、村野月岡 靖智、岩元 真	浩一、中井川 孝之 [樹	
学 承	+	コンサート・イベン ステージ照明コー		ł	受業ス	方法	講義		
認定單開講等		3単位 1学年	開講期	必選			授業時間数 54時間 254時間 255時間		
授業目					アジュ	ール・予算	I 管理などの重要性	を学び社会人としての	
授業 F (ラーニ アウトカ.	ング			イテムなと	で理	解を深め、	実習、実技などで身	具体的に授業目標を	
授業棚	既要	現場で必要なスいて説明を行って		·制作•運	営・大	道具·楽器	・特殊効果と分けて	「深く座学や実技にお	
			授業内容				授業内容		
	1	オリエンテーション①			19	「譜割り」の作成	Ì.		
	2	オリエンテーション②			20	実際の楽器を値	吏ってのローディー実践(D	
	3	オリエンテーション③			21	実際の楽器を値			
	4	ジャンル別に求められるスタッフの違い			22	シーケンスを使	使った同期演奏の実践		
	5	イベントに関わる全セ	クションの業務内容		23	学祭に向けて6	つ現場テクニックの復習		
	6	制作業務の講義、ショ	ュミレーション		24	学祭の反省会			
		シュミレーションを取り上げての予算案説明			25	「特殊効果」の	種類と消防法		
授	8	まとめ①			26	「特殊効果」の	実践		
業計	9	スケジュールの作成力	7法		27	クリスマスイベン	小 全セクション合同打ち	ら合わせ	
画表	10	舞台で使用する道具・	や、寸法の説明		28	クリスマスイベン	小 最終技術打ち合わせ	<u>+</u>	
	11	図面の見方及び、作品	成方法		29	クリスマスイベン	小 反省会		
	12	グループに分かれて「	バミリ」の実践		30	演出で求められ	い る「キッカケ」		
	13	イントレ&平台等、基础	选舞台作成方法		31	コンサート映像	を見ての進行表の作り方	î	
	14	「夏のイベント」へ向け	ての基礎舞台作成		32	2年生の卒業制	川作のための技術予習		
	15	「夏のイベント」へ向け	ての基礎舞台作成		33	1年間を通して	のまとめ及びプロ意識の	講義	
	16	まとめ②			34	まとめ①			
	17	スタッフとしての方向性	生議論		35	まとめ②			
	18	「譜割り」の作成方法			36	まとめ③			
		テスト		40%	学	習FB方法	前期•後期 成績夷	送送付	
成績害	削合	学習態度・出席	率	30%	,-	L. D. J. L.			
/-/\/\	7 🗇	レポート		30%	Б	 找績評価			
		合計		100%	,.	77/2KT III-I	以下は不合格		
P/R/A/C 講師コ	プロ		≫30% R≪実働実践 「従事し、ホール・アリ 「である」				型学習≫30% G≪海 様々な現場で活躍して		

シラバス									
科目名				担	担当者名		長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之、月岡 靖智、岩元 真樹		
学 科		コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース		ł	授業方法		講義		
認定自	—	3単位 開講期		N/ NEE		授業時間数	54時間		
開講学年		1学年 必・選			必追				
授業目的		イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人と 成長を目的とする						と学び社会人としての	
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める							
授業概要		現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく							
		授業内容				授業内容			
	1	オリエンテーション			19	「譜割り」の作成			
	2	オリエンテーション			20	実際の楽器を使ってのローディー実践①			
	3	オリエンテーション			21	実際の楽器を使ってのローディー実践②			
	4	ジャンル別に求められるスタッフの違い			22	シーケンスを使った同期演奏の実践			
	5	イベントに関わる全セクションの業務内容			23	学祭に向けての現場テクニックの復習			
	6	制作業務の講義、シュミレーション			24	学祭の反省会			
	7	シュミレーションを取り上げての予算案説明			25	「特殊効果」の種類と消防法			
授	8	まとめ①			26	「特殊効果」の実践			
業計画	9	スケジュールの作成方法			27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ			
画 表	10	舞台で使用する道具や、寸法の説明			28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ			
	11	図面の見方及び、作成方法			29	クリスマスイベント 反省会			
	12	グループに分かれて「バミリ」の実践			30	演出で求められる「キッカケ」			
	13	イントレ&平台等、基礎舞台作成方法			31	コンサート映像を見ての進行表の作り方			
	14	「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成			32	2年生の卒業制作のための技術予習			
	15	「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成			33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義			
	16	まとめ②			34	まとめ			
	17	スタッフとしての方向性議論			35	まとめ			
	18	「譜割り」の作成方法			36	まとめ			
成績割合		テスト 40%			学	習FB方注	前期•後期 成績表送付		
		学習態度・出席率 30%			学習FB方法		刊		
		レポート 30%			成績評価		出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点		
		合計		100%			B70~79点 C60~69点 D59点 以下は不合格		
P/R/A/G割合		P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%							
講師プロ フィール		長年舞台監督として従事し、ホール・アリーナツアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している							

シラバス									
科目名		音響技術 I		担	担当者名		櫛田 博		
学 科		コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース		授業方法		方法	講義		
認定単位		4単位 開講期					授業時間数	72時間	
開講学年		1学年 必・選			必道	選	汉 木 州 阳 纵	1 2 mg (Hg	
授業目的		技術的な基礎知識	識を身につける	。/論理	!的な	思考力を身	につける。		
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		ハードウエア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウエア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。							
授業概要		前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロフォンからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。							
		授業内容					授業内容		
	1	オリエンテーション			19	前期末試験の解説			
	2	オリエンテーション			20	周辺機器 ① (イコライザー/空間系エフェクター)			
	3	オリエンテーション			21	周辺機器 ② (ダイナミックス系エフェクター/録再機器)			
	4	PAの世界			22	アウトプット ① (ユニット/ホーン/エンクロージャ)			
	5	音響に必要な算数・数学			23	アウトプット ② (プロセッサー/パワーアンプ)			
	6	舞台・音響の略号と仕込図			24	アウトプット ③ (指向性/スピーカシステム)			
	7	電気の基礎 (電圧/電流/電力)			25	ルームアコースティック(音の吸収・反射・透過/残響)			
授	8	電子の基礎 ① (抵抗/コンデンサ/コイル)			26	音の発音とマイキング			
業計	9	電子の基礎 ② (dB/インピーダンス)			27	音響備品/ケーブル/工具			
画表	10	電子の基礎 ③ (アナログオーディオ伝送)			28	デジタルの基礎 ① (デジタルオーディオ)			
	11	音の性質			29	デジタルの基礎 ② (PCM音源と圧縮音源)			
	12	聴覚·音響心理効果			30	音響の仕事の進め方			
	13	音響システムの概要			31	後期まとめ			
	14	インプット ① (マイクロフォン)			32	リクエスト講義			
	15	インプット ② (ピックアップ / DI)			33	学年末試験の解説			
	16	ミキサー ① (インプットモジュール)			34	まとめ			
	17	ミキサー ② (アウト	プットモジューバ	レ)	35	まとめ			
	18	前期まとめ			36	まとめ			
成績割合		テスト 90%		学習FB方法 成績評価		前期・後期 成績表送付 出席率80%以上 S90~100点 A80~ 89 B70~79点 C60~69点 D59点 以下は不合格			
		学習態度・出席率 10%							
		レポート 合計 100%							
P/R/A/G割合		571 (c.) E18					〈海外体感型学習≫10%		
講師プロ フィール		音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。							

シラバス									
科目名		舞台技術		担	担当者名		渡邉 政美		
学 科		コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース		打	授業方法		講義		
認定單	单位	4単位					拉 光 吐 胆 粉	70F±88	
開講学年		1学年 必・選			必選		授業時間数	72時間	
授業目的		仕事として、現場に出た際困らないように基				な知識をな	るべく多く学生に伝	云えていく	
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。							
授業概要		舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、 舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺 貫法」を理解する。							
		授業内容				授業内容			
	1	オリエンテーション			19	試験			
	2	オリエンテーション			20	試験の講評			
	3	オリエンテーション			21	舞台用語(シーリング、フロントなど)			
	4	講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技 術の授業に関して			22	ホール管理について			
	5	舞 ロ 川 韶、 場所 リン 石 削、 て 4 いて 4 いり 反 剖、 台 注 意 点 を プ ロ 音響 デ ー タ ー ブ ックを 参 考 に			23	山台の組み方(復習、基礎編1)			
	6	PowerPointを使い伝える 同上(中割幕、大黒幕など)			24	山台の組み方(基礎編2)			
	7	同上(暗転幕、バトンなど)			25	山台の組み方(基礎編3)			
授	8	同上(舞台用語に関して)			26	山台の組み方(応用編 迫)			
業計	9	同上(アッパーホリゾントライトなどと、平面図 に関して)			27	山台の組み方(応用編 2枚重ね)			
画表	10	同上(綱元、操作盤など)			28	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)			
	11	同上(迫、すのこなど)			29	山台の組み方(応用編 変形2)			
	12	同上(反響板、オーケストラピットなど)			30	舞台の禁止行為に関して			
	13	同上(所作台、本花道など)			31	試験対策			
	14	同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して			32	試験			
	15	高さのない山台の組み方			33	試験の講評			
	16	高さのない山台の)組み方		34	まとめ			
	17	舞台用語(定式幕、高座台など)			35	まとめ			
	18	試験対策			36	まとめ	: දහ		
成績割合		テスト 50%			学習FB方法		前期·後期 成績表送付		
		学習態度•出席率 50%							
		レポート			成績評価		出席率80%以上 S90~100点 A80~8 9 B70~79点 C60~69点 D59点以 下は不合格		
		合計 100%							
P/R/A/(講師: フィー	プロ	東京工学院音響芸	術科卒業の後、株式	会社岡田舞	手台に	て、ホール管理	参加型学習≫20% G≪ 単及び技術者として勤約	海外体感型学習≫10% 売28年に至る。勤務した	
フィール		会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。							